訓練 弟子たち 修行

セッション 29: 弟子の標準:卓越性(12a)

ロン・ライブリー M.Div., M.A. による提供 – BiblicalMentoring.org(研究)

ステップ1:開会の祈り

ステップ2: 各人がその記憶の節を引用します: ヴァース: **マタイによる福音書 5:46-48**
46 もしあなたが自分を愛する人を愛するなら、どんな報いがあるのですか?
徴税人でさえ同じことをしないのですか?
47 もしあなたが兄弟たちにしか挨拶しないなら、他の人より何をしているのですか?
異邦人でさえ同じことをしないのですか?
48 だから、あなたがたは完全でなければならない。あなたがたの天の父が完全であるように。

ステップ3: *聖書の章の全部または一部を読み、議論してください* - **マタイによる福音書5章**
リンク: https://www.biblegateway.com/passage/?search=Matthew%205&version=ESV

ステップ4: 個人応募やグループディスカッションに関する質問:

一. イエスは内なる五つの領域――言葉、行動、愛、信仰、純潔――において卓越性を求めます。あなた自身や弟子たちに対しても同じことをする覚悟はありますか?

二. こうした高い要求に応える唯一の方法は、あなたの中にキリストを持つことだと気づいていますか?これらは神からの恵みと憐れみの賜物です。

三. 揺さぶられたり試されたりすれば、本当の人物が明らかになります。誰かがあなたの駐車スペースを盗んだり、交通中に割り込んだりしたらどうなるか見てみてください。

四. フィリップスは再び、弟子訓練とは、自分自身の経験であるキリストの人生への関与を、別の人に再現することだと述べています。自分が弟子になっていない人に弟子を作ることを教えることはできますか?

五. **話し方**:なぜ神は、訓練者であるあなたに舌をコントロールすることを期待するのですか?(ヤコブ書3章2節)

ステップ5: *本書の内容を読み、議論してください:*
著者による第12章a(キース・フィリップス):

弟子の基準:卓越性

キリストの教えは、理想主義的な倫理から律法的な命令まで、さまざまな形で解釈されてきました。しかし、他の人がその教えをどう理解しようとも、主の生涯を学ぶと、主は弟子たちにご自身の教えを実践することを期待していたことが明らかになります。イエスは弟子たちが行ったすべてのことに卓越性を求めました。山上の説ならびに、すべての教えと同様に、イエスの主な強調は義――外見的な行動の根底にある内なる人格――にありました。彼は弟子たちに「あなたがたの天の父が完全であるように」と教えました(マタイ5:48)。種まきのたとえで、イエスは実が完全になることを望むことを示されました(ルカ8:4-15)。群衆による彼の生涯と働きに対する評価は、キリスト自身の卓越へのコミットメントを裏付けました。「...彼はすべてのことをうまく成し遂げられた...」(マルコ7:37)神は優れており、すべての行いは素晴らしいものです(詩篇119:68)。あなたの弟子は、神の子として、その全存在が父の卓越性を反映しなければならないことを理解する必要があります。神は彼に「すべての善い業において完璧である」ことを求めている...」(ヘブル人への手紙13章21節 KJV)

この期待されるパフォーマンスのレベルが自分の能力をはるかに上回ると、人は落胆するかもしれません。しかし、神の恩寵と力の賜物はその要求に付随しています。キリストがあなたの中におられるから(コロサイ人への手紙1章27節)、義は手の届くことができるのです。

ある寒い朝、私はオフィスへ向かう車で熱いコーヒーのカップを持って行きました。私は一滴もこぼさずに高速道路に無事に乗り出しました。突然、前の運転手が急ブレーキを踏みました。私は事故を避けるためにハンドルを切った。コーヒーが手をやけどさせ、車内を一変させてしまった。なぜコーヒーがカップから出てきたのか?前の男性が私に手を強く動かさせたから?違う!コーヒーがこぼれたのは、コーヒーがカップに入っていたからだ。そのカップに何が入っていたかは、揺らせば出てしまったはずだ。私たちの行動も同じです。揺さぶられると、本当の人間が出てくる。もし他のドライバーがあなたの駐車スペースを取って、その反応で罵り言葉を言ったら、「もしあの運転手が私のスペースを取らなかったら、私は悪態をつかなかっただろう」と理屈をつけますか?弟子は、もし敵意や卑劣な言葉が内になかったら、その言葉は出なかっただろうと知っています。もし露出の多い少女が通り過ぎて、あなたが欲望に燃えたら、「彼女がいなければ、私は欲望しなかっただろう」と言いますか?弟子は、もし内側に欲望がなければ、欲望は持たなかっただろうと知っています。もしあなたが動揺しているとき、キリストがあなたの中にいるなら、義が現れます(ローマ8章10節)。弟子訓練とは、キリストがあなたの人生に関わった経験を別のものに再現することです。他者に敬虔な人格を忠実に伝えるためには、弟子は神の卓越性の基準を理解し、努力しなければなりません。パウロはテモテに、弟子が神と父を正確に反映しているかどうかを示す五つの領域を指摘しました。パウロは「誰もあなたの若さを見下してはならず、むしろ言葉、行動、愛、信仰、清らかさにおいて、信じる者の模範を示しなさい」(テモテ第一4章12節)と書いています。

スピーチ

あなたの弟子の話し方は、その人の霊的健康を正確に測る指標であり、その人格を反映しています。「もし誰かが自分を宗教的だと思いながら、口を閉ざさず、自分の心を欺くなら、その人の宗教は無価値である」(ヤコブ1:26)。ある朝、私は牧師のオフィスでプライベートに話していました。驚いたことに、彼は下品な冗談を言い、下品な言葉も含めて言いました。一瞬の迷いもなく、この男への尊敬は一気に下落しました。本能的に、彼の言葉は彼の心を映し出しており、この人は不浄と未熟さと闘っているのだと知りました。ルカ6章45節は「...彼の口は心を満たすものから語る。」清らかな心は正しい思考を生み出し、神に喜ばれるように話すことを可能にします。神は弟子に舌を制御することを期待しています。"...もし誰かが自分の言葉でつまずかなければ、その人は完全な(あるいは成熟した)人間であり、全身を締めることができるのです」(ヤコブ3:2)。

ヤコブは乗馬を用いて、小さくて取るに足らない部分をうまく制御できなければ、全体の支配権を失うことを示しています。熟練の騎手は、馬の手綱に力をかけて、どのように、いつ手綱を締めるべきかを正確に知っています。しかし、手綱を落とす騎手は、制御不能です。舌を制御できないキリスト者は深刻な危険にさらされています。舌は「人全体を堕落させ、人生の全過程を燃やし、地獄によってそのまま火をつける」(ヤコブ3章6節 NIV)。抑制のない舌は誇りを誇りに表します。下品な話やネガティブなユーモア、人種差別的な言葉で道徳的な悪を煽ります。人間、すなわち神の創造物を呪いながらも、偽善的に神を祝福します。詩篇34:13は「口を悪から、唇を偽りの言葉を口にしないようにしなさい」と勧めています。しかしヤコブ3章8節は、誰も自分の舌を制御できないと警告しています。しかし、聖霊は弟子の舌を馴染め、彼が話すすべての言葉が神を讃え、他者を築くようにしてくださいます。ローマ人への手紙14章19節は、私たちに「彼らを成し遂げるものを追い求めなさい.....」と励ます。互いを築き合うこと。」正直さは必ずしも啓蒙的ではありません。真理は恐ろしく破壊的になり得ます。弟子は真理を損なうことなく他者を一貫して築くために、聖霊の導きに強く頼る必要があります。彼は他者の学び意欲を損なうことなく訂正しなければなりません。彼は挑戦する意欲を妨げることなく、卓越性を促すよう求められます。彼は自己憐憫を育むことなく、他者の重荷を思いやりを持って引き受けることが求められます。他者への投資の効果は、主に愛をもって真実を語る能力によって決まります。"...愛は築く」(コリント人への第一の手紙8章1節)。

あなたと弟子はこう祈らなければなりません。「わたしの口の言葉と心の黙想が、主よ、わたしの岩であり、私の救い主よ、あなたの御御目に受け入れられますように」(詩篇19:14)。

行動
あなたの弟子の行動は、自分の中におられるキリストへの敬意を生まなければなりません。彼は「肉の欲望を戒め」と「優れた振る舞いを保つ」ように勧められています(ペテロ第一の手紙2:11,12)。彼の他者への愛情深い思いやりと感受性は人々をキリストへと引き寄せます(コリント人への第一の手紙9:19-23)。これは、彼が「義と聖さにあって神の似たように造られた新しい自己」を着せたときにのみ起こり得ます。(エペソ人への手紙4:24)弟子の卓越性を育てるためには、彼が自分の優先順位に従って生きるのを助けなければなりません。彼は、自分の目的や目的に合わない、弟子を作るという目標に役立たない、一見良いことには「ノー」と言わなければなりません。サタンはしばしば、多くの機会を策略として使います。なぜなら、弟子があまりにも多くのことを試みすぎると、そのすべてが平凡に特徴づけられることを知っているからです。ターゲットに目を向け続けることで、すべてをうまくやることに集中できる。

pp. 135-138

ステップ6: *個人的な祈りの願いを共有し、それぞれが相手の願いのために祈ります。*

出典:キース・フィリップス博士著『The Making of a Disciple』。フレミング・H・レヴェル社出版、1981年。ISBN 0-8007-1181-5。ロバート・E・コールマンによる序文。内容(学習問題を除く)は本書から改訂なしで引用しています。

改訂20261123